

福知山公立大学 2026 年度入学式 式辞

本日、福知山公立大学の地域経営学部、情報学部、そして大学院地域情報学研究科に入学された皆さま、ご入学まことにおめでとうございます。教職員を代表いたしまして、心より歓迎の意を表します。また、これまで皆さまを温かく見守り、支えてこられたご家族やご親族の方々にも、深くお慶びを申し上げます。また、本日は福知山市長大橋一夫様にご臨席を賜りましたこと、厚く御礼申し上げます。

今日から皆さんの大学生・大学院生としての新たな日々がスタートします。これからの数年間、皆さんの人生において極めて重要で、豊かな実りをもたらす時となることを、私は確信しています。新しい学びの門出にあたり、とりわけ学部生のみなさんには、ぜひ心に留めておいていただきたいことがあります。それは、大学での学びは、皆さんがこれまで経験してきた「正解のある」学びとは本質的に異なるということです。高校までの教育は、すでに確立された知識を正確に理解すること、あらかじめ用意された正解をいかに効率的に導き出すのかということに重点が置かれてきました。しかし、現実の社会には、あらかじめ用意された完璧な正解などは存在しません。大学で真に求められるのは、与えられた問題を解く力ではなく、「この複雑な社会において、私たちは今、どのような問いを立てるべきか」を自ら探し出し、発見する力です。答えのない世界に足を踏み入れ、当たり前とされている常識を見つめ直し、自分なりの問いを打ち立てること。それが、大学での真の学びの出発点なのです。

本学は公立大学として開学して10周年を迎えました。その当初から本学は「地域のための大学」として、設置者である福知山市、そして兵庫県を含めた北近畿地域の抱える諸課題に向き合ってきました。学生の皆さんにも、この地域の課題に挑戦することを求めてきました。この地域は豊かな自然と歴史・文化に恵まれる一方で、人口減少や高齢化、産業の空洞化といった、日本全体が直面する課題が顕在化している地域でもあります。それらはまさに「正解のない」課題です。本学での学びは、教室の中で教科書を読み、理論を受動的に学ぶだけでは完結しません。皆さんが自ら立てた問いを携え、実際に地域の現場へ赴き、そこに暮らす多くの人々と直接関わり合い、協働しながらリアルな課題解決に挑む実践的な学びです。それを「地域協働型教育」と呼んできました。

そして、開学11年目となる今年度から教育内容、カリキュラムを抜本的に刷新しました。この新しい学びの目指す目的の一つは「情報学を基盤とした地域協働型教育」です。つまり、「地域協働型教育」であることに変わりはありませんが、地域に触れるときには、単なる直感や印象だけに頼るのではなく、情報学の知見を用いてデータを科学的に分析し、客観的な根拠に基づいて学び行動する力が不可欠です。地域協働型教育を「情報学を基盤とする」ことの重要性はこの点にあります。たとえば、学士課程の基盤教育科目の一つである「地域協働演習」という授業では、1年生全員が地域経営学部と情報学部の両方の学生からなるクラスで共に学びます。現代の複雑な社会課題は、文系や理系といった従来 of 学問の枠組みに収まるものではありません。文系・理系という古い壁を越え、多様な視点を持つ仲間と議論を交わし、データを支えにして現実の地域課題について自ら問いを立ててください。

そして、この「問いを立てる力」は、現代社会においてかつてないほど重要性を増しています。近年、生成AIが急速に発展し、私たちが何かを尋ねれば、正解らしい答えを瞬時に提示してくれる時代になりました。大学での学びにおいても、生成AIを道具として有効に利用することは不可欠です。しかし、いかに生成AIが高度に進化しようとも、決定的に欠けているものがあります。それは、現実の社会に対して「自ら問いを立てる」自発的な意志です。生成AIは、人間が入力した指示に基づいて回答を生成することはできても、社会の歪みを感じ取り、人々の痛みや喜びに共感し、「ここには見過ごされている問題があるのではないか」「もっと別の視点からアプローチすべきではないか」と自発的に疑問を抱くことはできません。問いを発見できるのは、現実の社会に確かな身体を置き、他者と関わり合いながら生きる私たち人間だけなのです。生成AIの時代だからこそ、人間にしかできない「問いを立てる力」こそが、皆さんの存在価値を決定づけることになるのです。

そして、新しいカリキュラムのもう一つの柱が、「汎用的学修能力の育成」です。現代社会は、テクノロジーの進化や社会構造の変化によって、目まぐるしいスピードで変貌し続けています。皆さんが本学での数年間で修得することになる専門知識やスキルも、卒業して社会に出た後、10年、20年と経つうちに、そのままでは通用しなくなる日が必ず訪れるでしょう。そうであるからこそ、修士課程を含めて大学時代に身につけるべき重要な力とは、特定の分野の知識を修得しながら、同時に、卒業後に未知の困難な状況に直面したときに、自ら新しい課題を見定め、その解決に必要な知識やスキルをその都度自分で獲得してゆくという「生涯にわたって主体的に学び続けることのできる力」なのです。これが「汎用的学修能力」です。これも「問いを立てる力」なのです。環境の変化を恐れず、自分自身の思考の枠組みを常にアップデートし続けるこの力こそが、これからの予測困難な時代を生き抜くための、最も確かな原動力となるはずなのです。

福知山公立大学は、皆さんの主体的な学びと果敢な挑戦を全力で支援します。新しい正課のカリキュラムにおいて教員が皆さんに寄り添いながら指導することはもちろんですが、皆さんが「やってみよう」と自ら立ち上げたプロジェクトを応援するサポート体制も整えています。失敗を恐れる必要はありません。他人の指示ではなく自らの好奇心を羅針盤にして、福知山、北近畿という広大なフィールドへ思い切って飛び出してください。

今日から始まる皆さんの大学生活が、自ら真摯な問いを立て、地域の人々と協働し、希望ある未来を自らの手で創造していく力を育む素晴らしい学びの日々となることを心より願っています。私たち教職員一同は、皆さんの学びの「伴走者」としてその成長の道りを全力で支え続けることをお約束して、私からの歓迎の式辞といたします。

本日はご入学、まことにおめでとうございます。

2026年4月3日

福知山公立大学学長 川添 信介